



「聞く力」を育てるには

令和6年 12月の園だより



くまの・みらい保育園



幼児クラスは、先日竜王山総合公園へバスに乗って遠足に行きました。大型バスに乗ることをとても楽しみにしていた子どもたちです。バスに乗るためのお約束、公園で遊ぶ約束も守らなければいけません。担任の先生からお話を聞き、元気のいい年少のお友だちも、クラスのお友だちと一緒に、約束を守って遠足へ行くことができました。公共の場では勝手気ままに遊んではいけません。遊具の正しい使い方を知り、思う存分身体を使っていろんなことに挑戦した子どもたちです。バスに乗りたい、公園へ行きたいという思いで、お話を真剣に聞き、約束が守れた子どもたち、大きくなったなと成長を感じた遠足になりました。

また先日の身体測定の時、年少の担任が一人お休みだった為、私は身体測定のお手伝いに行ったのですが、子どもたちは自分で服を脱いでたたみ、準備できた子から看護師の先生の所に体操座りで静かに待っていたのです。私は何も手伝うこともなく見守り、「赤組さんすごいね！」と褒めてあげました。子どもたちはすごいでしょと言わんばかりの表情をしており、びっくりさせられました。

幼児クラスになれば、「今は遊ぶ時間」「今はお話を聞く時」「静かに待つ時間」などと、その時々状況を判断して行動できるようにもなってきますが、中にはそういった行動の出来ない子もいます。その原因の一つに「聞く力」が育ってないことがあります。集中して聞けないので、「何をしたいかわからない。」「回りを見ながら行動するけど、複雑になるとわからない。」「面白くないから勝手なことをしてしまう。」「勝手なことをしたら、担任が来てくれて独り占めできる。だからみんなと違う行動をしても平気。」というマイナスの流れが生じているようです。

「聞く力」は自然に育つものではなく、幼児クラスになったから、年長さんになったから勝手に身につけているものでは

ありません。小さい時の関わりが何より大切なのです。小さい時にしっかり関わってもらい、「そう、よかったね。」などという言葉と一緒に話を聞いてもらう経験をたくさんしている子どもは、気持ちが満たされ、人の話を聞こうとする態度が育っているのだと思います。こあら組の赤ちゃんでも、「あー、あー」と喃語を発し、見えるものを指さして、自分の思いを一生懸命伝えようとしています。その指先の方向を見ながら「どんぐりが落ちてるね」などと思いを読み、言葉を添えてあげると、赤ちゃんは満面の笑みを見せてくれます。赤ちゃんの時から関わり方が、幼児さんになった時の姿に大きく影響してくるのです。

保育園では、子どもたちの思いに心を馳せていきながら、赤ちゃんの頃から「何だろう」と不思議に思い、自ら体を動かしたくなるあそびの環境作りも大切にしています。ご家庭でも、しっかりお子さんの声に耳を傾け、思いに共感してあげてください。

朝「はやくして!!」と怒りながら登園される保護者の方もおられます。お忙しいのは十分わかりますが、言葉遣いは子どもにも伝わり、同じような言葉をお友だちにも使ってしまうのです。だからこそ、私たち大人も、相手のことを大切にすることを学ばなくてはなりません。幼児クラスになってもまだまだ甘えたくて抱っこが必要なお子さんもいます。しっかりお子さんの欲求に応えてあげ、「自分は愛されている」という、自己肯定感を持たせてあげてください。心が安定し、愛情をたっぷりかけてもらったお子さんは、感謝と思いやりのある自主的な行動のとれる子になります。これから生きていく子どもたちを育てる大切な5年間、子どもに寄り添った関わりをしていきましょう。「聞こう」とする気持ちが育っていくことを願っています。

くまの・みらい保育園 園長



おもちつき

年末にするお餅つきは鏡餅を作るためと、お雑煮に入れる丸餅を作るための両方の意味があります。「今年一年が幸せでありますように」と新年の歳神様をお迎えしてお祈りするために鏡餅を作ります。歳神様がお正月の間に落ち着く場所が鏡餅なのだそう。丸餅には神様からの魂が宿り、生命力が与えられると言われている。昔からおめでたいときにはお餅つきをして、神様からの元気をいただいていたんですね。

今年は、おじいちゃんおばあちゃんと子どもたち、職員でお餅つきをします。杵とうすで「よいしょ～よいしょ～」元気な声が聞こえそうですね。

おいもほり

おいもほり、みんなで力を合わせて掘りました



冬至

一年で一番昼が短く、夜が長い日が冬至です。冬至の日にカボチャを食べたり、ゆず湯に入ったりすると、風邪をひきにくくなると言われています。寒くなるこれからの時季、体を温めて風邪に負けない強い体にしましょう。



えのぐあそび

葉っぱと絵の具の組み合わせ。年少さんもまねっこして絵の具を楽しんでいます



お手伝いをさせよう

子どもたちは、お手伝いが大好きです。「ありがとう」「助かったよ」という言葉を聞くと、自分が認められたと思うのでしょうか。二度手間になると思われるかもしれませんが、その子にできるお手伝いを見つけ、役に立つ喜びをしっかりと味あわせてあげてください。

保育園でも、子どもたちと一緒に年末の大掃除をします。

こままわし



コマ作りに夢中だった年長さん。今度はひものコマ回しに夢中です